

ご紹介いただきました、豊橋市役所長寿介護課の海野といいます。  
よろしく願いいたします。

皆様こんにちは。

今日は、本日発表させていただく予定でした豊橋市役所長寿介護課の佐々木に  
変わりました、私、海野が報告の方をさせていただきたいと思います。

本日は、本市における認知症サポーター講座の取り組み事例について報告させ  
ていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

本日の報告内容を、1から4として載せさせていただきました。

愛知県主催で認知症サポーター活動事例紹介研修を行うということで、愛知県  
の方より講師依頼をいただきました。

本市が昨年3月末時点で、名古屋市を除き、県内で最もサポーター数が多く、多  
職種にわたって講座を開催しているということで、啓発や取り組み状況を紹介  
させていただき、また、地元企業である豊橋鉄道株式会社さんのサポーターの活  
動も、本市がどのようにバックアップさせていただいたかということ、発表さ  
せていただく機会をいただきましたので、今回の研修で報告させていただきます。

まず初めに、本市の概要について簡単に説明させていただきます。

こちらはすべて令和3年4月1日現在のデータとなります。

人口は37万4131人。

世帯は16万1878世帯です。

高齢者数は9万6482人、高齢化率は25.8%で、ともに毎年増加傾向にありま  
す。

愛知県の高齢化率が推計25.1%なので、県内では高い方ということになります。

要介護認定率は15.2%で、こちらも毎年増加傾向にあります。

地域包括支援センターは18ヶ所、認知症初期集中支援チームは一つ。

認知症地域支援推進員は専任で3名います。

次に、本市の認知症サポーター講座の開催実績についてです。

平成17年度から始まり、直近の5年間の実績は表の通りとなります。

令和3年度12月末現在の累計数は1395回、4万6081人となります。

平成17年度に始まって以来、令和元年度までは、開催数、受講者数ともに増加  
しております。

令和2年度については、コロナの影響で、開催数、受講者数ともに減少しまし  
たが、そのような中でも、受講して下さった団体として特に挙げさせていただ  
きたいのが、小学校や中学校、専門学校です。

10校の小学校と2校の中学校、1校の高校、5校の専門学校が受講してくださ

ました。

今年度については、開催数、受講者数ともに、12月末現在において、すでに昨年度の実績を上回っており、感染対策をしての受講が可能な団体が増えてきたのではないかと印象を持っています。

こちらの表は、受講団体を分類分けしたのになります。

こちらは一部挙げさせていただきましたが、ご覧の通り、様々な分野の方々に受講していただいていることがわかります。

継続して受講していただいている団体としては、学校関係、公共交通機関、宅配ありの食品配達、保険会社、金融機関、娯楽業、郵便局、医療系法人などが挙げられます。

今年度、新規で受講していただいた団体としては、放課後の新たな学びの場として、令和2年度より開設されました小学生を対象に、多彩な学び、交流機会を提供しているのびるん de スクールや、認知症カフェなどが挙げられます。

次に、認知症サポーター講座の啓発について、本市が取り組んできたことを紹介させていただきます。

最初に、啓発全体についてです。

まず、チラシの作成配布についてですが、このようなチラシを作成しました。

こちらが表になりまして、こちらが裏になります両面印刷でのチラシです。

チラシは市役所本庁や大型ショッピングセンター、地域包括支援センターなどに配布しています。

画像は白色のチラシになっておりますが、実際のチラシは山吹色になります。

網の色を山吹色にしたり、ロバ隊長と豊橋市のゆるキャラであるトヨッキーを表紙に並べたりと、皆さんの目に留まるような工夫をしました。

また、受講した方々が書いてくださったアンケートを、元に、受講した感想を掲載し、受講することの意義をわかりやすく伝えました。

次に、市役所ホームページと広報豊橋への掲載についてですが、1年に3回の一般市民向けの講座開催前に、市民の皆様にお知らせし、受講者を募っています。それ以外にも、講座の申し込みは随時受け付けていることを、広報豊橋は、1年に1・2回追加で掲載しております。

次に、まちづくり出前講座についてですが、こちらは、本市の広報広聴課という別の部署が窓口となっており、様々な出前講座があるのですが、その中の一つに加えてもらうことで、講座申し込みの入口をより広くしました。

最後に、地元ケーブルテレビのピースや、地元FM局のFM豊橋での放送についてです。

より広く啓発するために、担当である広報広聴課に依頼をし、ケーブルテレビとラジオに長寿介護課の職員が出演し、講座の紹介をしました。

その他にも、業務で使用している封筒や職員の名刺に、ロバ隊長を載せたり、職員が手づくりしたロバ隊長のマスコット人形を名札につけたりしています。

また、全国キャラバンメイト連絡協議会から購入しましたロバ隊長のマークのエコバックを連絡便や外出する際に使用しています。

さらに、市内のグループホームの職員の方々が作ってくださったロバ隊長のマスコット人形を、長寿介護課窓口のカウンター近くに置いたり、講座の際に飾ったりしています。

先ほど申し上げた、ケーブルテレビの撮影の際にも、ロバ隊長のぬいぐるみを持って出演しました。

こうした多種多様な媒体、メディアの活用をし、地道なことを繰り返すことで、皆さんに、このロバは何と申していただけなきっかけづくりをし、情報発信をしてきました。

次に、若年層への啓発について説明させていただきます。

小学校中学校は、福祉教育の一環として、毎年数校が受講していただいています。高校は、毎年受講していただいている学校が1校あり、生活文化科の生徒が受講していただいています。

将来、介護や看護の分野に進む生徒たちにも向けて講座を開催することの意義があると、担当の先生が思ってくださいましたことはもちろんですが、生徒が飽きないように、講座の中に寸劇を盛り込むなど講師が工夫したり、簡単ではありますが、本課の職員が実際に行っている市の認知症に関する取り組みについてお話ししていただいたりすることで、より意義のあるものだと感じていただき、継続して受講していただいているのではないかと考えております。

大学については、地域包括支援センターの職員が、飛び込みで営業していただき、市内数校の受講実績があります。

生活支援や、医療、福祉、健康支援を目指して、ロボットの開発をしている研究室の学生や看護学科の学生など、幅広く受講していただいています。

放課後児童クラブについては、受講したことのあるクラブの指導員の方々が、あの講座よかったよと、他のクラブの指導員の方々に広めてくださいました。

他にも、放課後の新たな学びの場であるのびるん de スクールや看護専門学校、歯科衛生士専門学校などの実績があります。

若年層への啓発については、講座において、これからの将来を担う若者や、介護する立場になる方たちに、高齢者、認知症について理解することの大切さを伝えてきましたところ、各学校の担当の方から反響があり、その団体の講座の継続や他の団体の新規の開催に繋がりました。

次に、企業への啓発について紹介させていただきます。

まず、企業向けのチラシ、チラシ作成配布についてですが、一般のチラシとは別

に、このようなチラシを作成しました。こちらは表で、こちらが裏になります。認知症の方が行方不明となった場合、メール配信し、多くの方に気にかけていただくことで、早期発見を目指す支え合いのシステムである豊橋おかえりネットと合わせて、チラシに掲載することで、発見協力機関として登録していただいた企業に、講座の申し込みもしていただくというねらいで作成しました。

次に、本市独自のロバ隊長ステッカーの配布と、本市のホームページへの掲載についてですが、受講して下さった企業には、豊橋市という文字が入ったステッカーを配布したり、ホームページに企業名を掲載したりと、企業にとってのメリットをアピールしています。

また、市内の薬局の方が在宅での薬剤師業務や、多職種連携、衣食住の生活支援や健康に関する医療支援をしているということで、本課へ営業にお見えになったことがあるのですが、そういった機会にも講座の紹介をし、実際に申し込んでいただくことができました。

次に、市役所人事課主催のテーマ別研修についてです。

人事課が主催で行っている職員対象のテーマ別研修に組み込んでもらうよう、人事課に依頼をしたところ、OKをもらうことができ、毎年開催しています。

次に、豊橋健康マガジンへの掲載についてです。

豊橋健康マガジンは、本市の健康政策課が取り組んでいる変更経営の一環として、事業向けに配信しているメールマガジンです。

健康経営に積極的に取り組む事業所を、豊橋健康宣言事業所として認定しているのですが、その条件の一つに認知症サポーター養成講座を入れてもらいました。

その結果、スーパーや、受講の申し込みがあったり、社員数の多い企業から、興味を持っていただけたりしました。

企業にとって業務内で講座を受講することは、よほどのモチベーションがないとできないことだと思いますので、企業のイメージアップを強みにしている健康経営の力の助けもあり、受講に繋がっていると思います。

それから、豊橋商工会議所に依頼をして、NewVoice という会報誌や、e-Voice というメールマガジンに掲載させていただき、より企業のメリットととどまる工夫をしました。

NewVoice に掲載させていただいたチラシが、こちらの画像になります。

こちらのチラシは、本市のシティプロモーション課という部署に相談に乗ってもらいながら作成したものなのですが、シティプロモーション課の職員に、講師の派遣が無料というのは、企業にとって大きなメリットだから、それをアピールすればどうかと言われ、無料で受講できることをアピールしました。

次に、認知症支援推進員の売り込みについてです。

推進員の方々が、他の事業で関わった方や団体に売り込みをしてくださり、例えば薬局などが受講してくださるようになりました。

推進員の方々が、営業活動をしてくださる際には、先ほど申し上げました、豊橋おかえりネットと合わせたチラシを配布して、おかえりネットの登録と同時に、講座申し込みをおすすめしていただいたり、オンラインや少人数の講座開催も可能であることをお伝えしていただいているとのことでした。

企業への啓発については、企業の目にとまるような啓発、企業にとってのメリットをアピールすることで、講座開催に繋がりました。

次に、豊橋鉄道株式会社さんの社内で、継続的に実施できる講座開催の支援について説明させていただきます。

豊橋鉄道さんは、豊橋市内の路面電車、バス、タクシーや、隣の田原市まで続く、渥美線等を運営されており、豊橋市民の大事になってくれている企業です。

豊橋市民には、豊鉄と呼ばれ、親しまれています。

昨年度、豊鉄さんから、平成20年度に講座を受講して以来、受講していなかったため、社員全員に受講させたい。

さらには、Oneアクションも受講していきたいが、社員数が多く、社内にキャンバンメイトが不在であること、また研修にあまり費用はかけられないこともあり、行政や包括支援センターの協力をえたいと申し出をいただき、本市が協力させていただくことになりました。

まず、講師の確保についてですが、本市から認知症地域支援推進員に依頼をし、最初の、5回の講座すべての講師をしていただきました。

Oneアクション研修については、愛知県の職員の方への依頼、調整を行いました。さらに推進員が講座で使用していたパワーポイントのデータを貸与したり、講座の流れを説明し、講座を始めやすくしました。

また、業務上のことで相談にもものってもらえたり、アドバイスをもらえたりする心強い味方である推進員を地域の資源として紹介しました。

紹介にあたっては、推進員に依頼をした最初の講座に2回ほど本市の職員が出向き、挨拶の場を設けました。

豊鉄さんは、公共交通機関なので、高齢者の利用が多いです。その高齢者の方々に安心して利用してもらいたい。地域貢献したいという強い思いをお持ちでした。その熱意を裏切らないように協力していきました。

最後にまとめです。

まず、本日お話しさせていただきましたように、講座の啓発について様々な工夫を重ねてきたこと、口コミが増え、受講者の職種分野も広がりました。

そして豊鉄さんへの支援のところですが、企業と行政が一枚岩となって取り組んだことで、企業は社内での継続的な講座開催が可能となり、ひいては講座開

催の拡大に繋がりました。

次に、今後の課題です。

本市では、今年度、一般市民向けの講座を3回開催しました。

先に申しあげましたように、広報豊橋と、市役所ホームページで市民の皆様にお知らせをさせていただいたのですが、あまり人数が集まりませんでした。

また、講座の受講者募集中に、認知症サポーター講座を1人で受けたいのですがどうすればいいですかと、長寿介護課の窓口を訪ねてこられた市民の方がみえたり、本市の他の部署の職員からも同じような質問を受けたことがありました。広報とホームページで十分周知できているつもりだったので、市民の方のみならず、同じ職員ですら知らなかったことにショックを受けました。広報とホームページだけでは、充分周知できていないということがわかったので、今後は、一般市民向けの講座に特化したチラシを作成したり、ケーブルテレビやラジオ放送するなど、より効果的な周知方法を検討していきたいと思えます。

これで私からの豊橋市における認知症サポーター講座の取り組み事例についての説明を終わらせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。